

# 地域密着型サービス事業者 自己評価表

( 認知症対応型共同生活介護事業所 ) ・ ( 小規模多機能型居宅介護事業所 )

事業者名	医療法人社団倭会 グループホームしづく ノノユニット	評価実施年月日	平成11年11月5日
評価実施構成員氏名	森 信孝 ・ 成田 ゆかり ・ 洲崎 美恵子 ・ 吉本 利加子 ・ 上里 美樹 ・ 八前 由香 ・ 高澤 泰啓 ・ 鈴木 玲花		
記録者氏名	池田 まゆみ	記録年月日	平成19年11月6日

北海道保健福祉部福祉局介護保険課

項目	取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。</p>		
2	<p>理念の共有と日々の取組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。</p>		
3	<p>家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる。</p>		
2. 地域との支えあい			
4	<p>隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りてもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。</p>		お天気がよい日でのお茶のみの時など、近隣の方にも参加していただき気軽に立ち寄る雰囲気作りに努めたい
5	<p>地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一人として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。</p>		これからも出来るだけ多くの行事に利用者と参加したい
6	<p>事業者の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。</p>		今後も独居の方や高齢者の方に出来る事が無いのか検討していきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p>		
8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。</p>		
9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。</p>		
10	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。</p>		地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を設けていきたい。
11	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>		
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
13 運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	利用者の意見、不満、苦情は職員が傾聴してミーティングや連絡ノートなどにより共有し、改善策を検討しながら良いケアに繋げるよう努めている。		
14 家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	ご家族の訪問時での報告、手紙また、変化があった場合は電話で随時報告していると共に毎月のユニット新聞の配布、各ユニットでのアルバム、個人のアルバムを通しご家族が来訪時見ていただいている。金銭管理についても約定を交わした方のみお預かりし、毎月の領収書の添付と共に内容の確認と残高報告を行っている。		
15 運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	来訪時や手紙、電話などにより意見を聞いている。連絡ノートや記録により職員も情報を共有し周知できるようにしている。苦情箱の設置や苦情対応担当者を設け事業所内にも掲示しているまた、運営推進会議での家族の参加により意見を聞く機会を設けている。		
16 運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	管理者はユニットの業務ミーティングにも参加し、またいつでも意見や提案を聞き検討し出来る事は実行し反映している。		
17 柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為話し合いや勤務の調整に努めている。	業務ミーティングでの話し合いにより、職員間の意見を聞きながら利用者の状態に合わせた勤務の時間の調整を行っている。		
18 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	各ユニットのバランスや年齢などを考慮しながらの配置を考えているが現状ではまだ、移動はない移動があった場合は職員や利用者のダメージを考慮しながら考える。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>		<p>これから継続して研修の機会、案内を提供していく。</p>
20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>		
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p>		
22	<p>向上心をもって働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。</p>		<p>自己評価の設定、評価を行い面談しながらフォローしている。また、個人の研修への参加の希望にはシフト調整を行っている。</p>
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会を作り、受け止める努力をしている。</p>		<p>利用者の不安、疑問の訴えには傾聴し、利用者が安心して納得されるよう努めている。また、相談の際は居室にてゆっくり傾聴し、思いを受け止めるよう努めている。</p>
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会を作り、受け止める努力をしている。</p>		<p>相談を頂いたときはゆっくり時間を気にせずお話を聞いている。また、対応の内容も明確にしホームでの対応状態を伝えている。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25 初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	相談を受けてもすぐに入居には繋がらなく、他のグループホームや、他のサービス利用も提案し対応に努めている。		
26 馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	入居前には見学をしていただくと共に、職員が顔馴染みになれる様面会をしている。また、状態により入居後も家族が数日間過ごし、ご家族、利用者が共に安心する様に働きかけることもある。		文面上の情報のみでなく、ご家族から直に生活のリズムや生活歴などの特徴を詳しく聞ける機会を設けていきたい。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	人生の先輩として利用者の培ったものを教わり、個々のリズムに合わせ時間を共有する事を忘れず、家族関係を築けるよう努力している。		日々物を大切に扱う姿や、その他ご自身が経験をされて来られた経歴などを活かしながら関わり、コミュニケーションを大切にしている。
28 本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	家族が来訪の時普段の様子を伝えたり、個々のアルバムを見ていただく事により状況や生活を共有できるようにしているが、家族状況や環境によりまちまちな部分も感じられる。		家族のケアの方向性についても意見を聞き考えを理解できる話し合いの機会を今後は、もっと増やしていきたい。
29 本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	入所時にはアセスメントの情報を基にご家族の関係の確認を行い理解した上で家族との繋がりを大切にする関わりに努めている。		家族との関係が曖昧な利用者には家族に近い存在になれるように負担にならない程度に対応している。
30 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	自宅にいたころから通っていた老人クラブへの参加の支援や知人の方が気軽に尋ねて来られる姿を見かける。		なるべく外出する機会を多くもてるよう今後も努め、知人の方や催しへの参加には入居者様へ呼びかけをしている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	利用者同士の関係を理解した上で、どのようにコミュニケーションを図っていただくか、状況に合わせ対応し、職員は媒介になるよう努め、対応しまた、その結果どうだったかをミーティングで話し合う機会を設け、支え合う関係ができるよう努めている。		
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	利用者が入院する等の時は職員がお見舞いに行ったりお手紙や電話などで時々近況などを伝えている。また、亡くなった場合も葬儀に参列している。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	利用者の思いを傾聴し、理解するとともに、本人と一緒に悩みより本人の思いに近づけるよう努めている。		その日、その日で個々の利用者により何をしたいかの違いは違うので関わりの中で思いに近づけるよう今後も努めたい。
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	在宅での生活を情報や利用者との会話の中から暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過などの把握に努めている。		利用者の一人ひとりが楽しんでいただけるよう努力していきたい。
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	一日の流れが身体状況、精神状況の変化を見逃さないよう努めている。申し送りや介護記録、職員間の情報により職員全員が把握できるよう努めている。		毎日の表情や状態により対応の仕方も違うのでその日の状況に合わせ手対応している。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	利用者の意向に基づき、プランを作成した上で実際に取り組み。職員の意見や情報を集め見直しをしながら話し合い作成している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37	現状に即した介護計画の見直し  介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	必要に応じプランを見直し、カンファレンスで話しをしている。その都度、ご家族や関係者と話し合い現状に即した計画を作成している。		個別記録に細かく変化などを記載しておく事で職員同士の情報交換、見直しも行っている。
38	個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	介護計画を立案した後やそれぞれの利用者についての変化や気づきに対し意見を交換話し合っている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援  本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	買い物や外出、外泊などの要望には適時対応し、ご家族の要望にも出来る範囲で支援している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働  本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	その場面場面で必要な事を部門ごとに協力をお願いし、また、町内会の新聞や運営推進会議を通じボランティアの受け入れ募集を行っている。		
41	他のサービスの活用支援  本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	サービスの利用状況やその他活動について他のケアマネジャーや事業者と話し合っている。		地域のグループホームの事業者等とももっと密接に関われるような機会を設けていきたい。
42	地域包括支援センターとの協働  本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	運営推進会議では地域包括支援センターの職員の方に参加していただいている。		権利擁護について学べる機会を作りたいと思う。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
43 かかりつけ医の受診支援 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	入居前のかかりつけの病院での受診に努めている。また、法人とも協力し、週1回の看護師の訪問の他、電話相談を行っている。		
44 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	近郊の専門医の受診で相談したり、状態の変化があったときは母体の精神科の医師、看護師に相談した、入院が必要な時はスムーズに治療が受けられている。		
45 看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	毎週看護師による訪問があり、口頭や日誌などで利用者の状況の把握を本人と職員により行っている。		
46 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	病院と連絡をとり、状況を確認したり、退院後の対応を確認している。		
47 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	今年度より重度化及び看取り介護に対する指針を定めご家族に説明している。入居者にとってよりよく、安心できる終末期の過ごし方について話し合い共有している。		
48 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	母体病院の協力を得て勉強会を行っている。協力体制を確立するため会議などを行いグループホームでの重度化や終末期の理解を深め日々情報交換を行っている。		今後も定期的な交流を深め、より深い協力体制を確立していきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
49	住替え時の協働によるダメージの防止  本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。	情報交換、共有を図りダメージを防ぐ事に努めている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1. その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重				
50	プライバシーの確保の徹底  一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。	声掛けには十分注意して対応している。記録を記入する際も配慮している。秘密保持に関しては職員の入職時の説明や誓約書に記入し退職後も秘密保持を遵守する様伝えてある。		介護する側としてプライバシーを損ねる関わりや記録の書き方には十分配慮している。
51	利用者の希望の表出や自己決定の支援  本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。	利用者が思いや希望を表せるように促したり、受容体となるよう利用者一人ひとりに合わせた馴染みの言葉で声掛けの工夫をしている。		
52	日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	利用者一人ひとりのペースに合わせ、生活のリズムや体調を崩さない程度に支援し、利用者の希望を優先しケアに取り組むことに努めている。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	身だしなみについて「こうしたい」等意見を発する利用者は少ないが、職員間で声掛けをし馴染みの店に連絡をとり予約などを行いながら支援している。また、馴染みの店がない場合は理容師の免許を持った職員がカットをしている。		日頃からおしゃれを楽しんでいただく為の身だしなみの声掛けや外出の機会を増やすなどの取り組みを行っている。
54	食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。	食事の準備、後片付け等無理強いをしないように声掛けをし一緒に行っている。		今後も体調、身体面に気を配りながら行っていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55 本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	既往歴、現病に配慮しながら支援している。ティータイムには一人ひとりに声掛けをし、飲み物を尋ね好みの物を楽しめるよう支援している。		今後も利用者の好みを会話の中から引き出す様、取組んでいきたい。
56 気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるように支援している。	介護記録や状況観察により排泄のパターンを見極め声掛け、誘導を行い排泄としての支援を職員間で統一したケアとして取り組み支援している。		日々の観察や職員間の情報交換を続けながらその方のペースに合わせた排泄のケアをおこなう支援を継続していきたい。
57 入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	利用者の希望に合わせて声掛けの促しをおこなっている。ご本人からの拒否の意思が聞かれた時には決して無理強いせず時間を置いたり日を改めたり、気分転換に温泉に行き入浴を楽しめる様支援している。		
58 安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	状態を観察し、本人が休息したい意志があるときは入床する様援助している。安眠に対してもその時の気温に合わせた寝具の調整などに配慮し支援している。		前日の夜間の入居状況にも合わせて日中の静養時間も作り休めるよう支援している。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59 役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	家事や畑仕事等、利用者に合わせて役割を持ってもらえる様支援している。また、会話の中から引き出し職員も一緒に行い、天気の状態をみながら散歩、ドライブなどの気晴らしを行なっている。		
60 お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	お財布をご自分で所持されている方が買い物希望された時には職員が付き添い一緒に外出する機会を持てるよう支援している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
61 日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	散歩やドライブ、買い物などの外出や暖かい日は外での食事や、ティータイムなどで戸外のへの外出を支援している。		
62 普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	コンサートや劇団鑑賞、展覧会公開放送などに参加し、楽しめる支援を行なっている。		今後は家族と共に出かけられる機会が作れるよう支援したい。
63 電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	電話を掛けたいという思いがある時には援助しながら自由に電話をしたり手紙のやりとりが出来るよう支援している。		
64 家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	面会をする方が自由に訪問できる様、声掛けを行なったりゆっくりとお話ができる様に配慮し利用者がご自分の家のように振舞えるよう工夫し支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援			
65 身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束になるような対応や言葉遣いには十分配慮し気を配り取り組んでいる。		
66 鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	職員は鍵を掛けることの弊害を理解し、居室や玄関も鍵をかけないケアに取り組んでいる		

項目	取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
67 利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	プライバシーに配慮しながら利用者に不快感を与えないように配慮し、見守り、所在確認を行なっている。		
68 注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	薬など注意の必要な物品については一部管理している物はあるが、状況に応じて取り組んでいる。		
69 事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	誤薬を防ぐ為に色別で日付と名前、服薬時を記入し服薬時は2度確認を行なっているまた、ヒヤリハット、事故報告書の作成や緊急時の捜査マニュアルの作成で事故防止に取り組んでいる。		
70 急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	心肺蘇生法の応急訓練の実施や訓練をおこなっているがまだ十分ではないと思う		一度に職員全員が訓練を受ける事ができないので情報を共有し積み重ね、正しい応急措置ができるよう努めたい。
71 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	年2回行なわれる避難訓練を通し避難方法を学んでいる。訓練の際の報告もホームページや新聞などで行い災害に対する理解と協力をお願いしている。		
72 リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	リスクやストレスなどの軽減も考慮しながら家族に説明し理解を得ながら行なっている。		今後も家族との連絡を密に取り、話し合いながら対応していきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73	<p>体調変化の早期発見と対応</p> <p>一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。</p>	<p>平常時のバイタルの把握をし、行動や表情に注意しながら申し送りや連絡ノートで職員間で共有し、対応に結び付けている。</p>	
74	<p>服薬支援</p> <p>職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。</p>	<p>個別の服薬状況の説明書と副作用がファイルされユニットの中に置かれてあるのでいつでも確認できる。また、薬の変更時は利用者の状態の観察を行なっている。</p>	
75	<p>便秘の予防と対応</p> <p>職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。</p>	<p>便秘に対する影響を理解し、なるべく自然排便ができる様、運動、水分、乳製品、食物繊維を多く含む食材で日々予防に取り組んでいる。</p>	
76	<p>口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れやおいが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。</p>	<p>毎食後、口腔ケアを促す声掛けを行い支援している。</p>	
77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。</p>	<p>食事摂取量、水分摂取量を個別に記録しながら支援している。食事の形態も個々の状態に合ったものを提供し援用バランスに努めている。</p>	<p>水分をあまり取りたがらない利用者には好みの果物や好きな水分を促す工夫をしている。カロリー制限のある利用者の食事も工夫し日々努めている。</p>
78	<p>感染症予防</p> <p>感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)</p>	<p>インフルエンザに関してはご家族より同意書をいただき毎年摂取している。また、外出時は必ずうがい、手洗いを実行している。寝具、居室も清潔を心掛けリネン交換をし、感染マニュアルを入職時配布し職員も感染に対する予防に務めている。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
79	<p>食材の管理</p> <p>食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。</p>	<p>まな板、布きん、包丁の漂白やアルコール消毒を徹底し、食材は新鮮なものを使い切り在庫確認も常に行なっている。</p>		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	<p>安心して出入りできる玄関まわりの工夫</p> <p>利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。</p>	<p>置物や季節の花を玄関に置き、玄関口にもベンチを置き気軽に座わり話ができると共に、建物周辺に職員と利用者が花を植え親しみやすい工夫をしている。</p>		
81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>照明にも配慮していると共に、台所は対面式で話をしながら作業ができる様に工夫している。また、居間には鳥や季節の花が置かれ、窓の外からも花が見え居心地よく過ごしていただけるよう工夫をしている。</p>		
82	<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	<p>共有空間にはリビングが2箇所あり、適度な死角となりながら、利用者が自由に居場所を選びながら過ごせる工夫をしている。</p>		
83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>利用者が使い慣れた物、寝具を持ち込んでいただき居心地のよい空間となる工夫をしている。</p>		
84	<p>換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気のおよみがないう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。</p>	<p>湿度計、加湿器を備え、温度調節、換気に努めている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	<p>身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	<p>建物には手すりが付いており、広々とした空間の中段差もなく自立した生活が送れるよう工夫している。</p>	
86	<p>わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。</p>	<p>一人ひとりの話を聞き、理解していただける様説明し、自立していただけるよう援助している。</p>	
87	<p>建物の外回りや空間の活用</p> <p>建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。</p>	<p>外回りは、花畑や畑になっており、好きな活動ができる様に活かしている。</p>	<p>野菜の収穫時は利用者様と職員で行い調理している。また、お花をユニット内や居室に飾るため利用者が自由に楽しんでいる。</p>

サービスの実績に関する項目		
項目	取り組みの成果	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input type="radio"/> ほぼ全ての利用者 <input type="radio"/> 利用者の2 / 3くらい <input type="radio"/> 利用者の1 / 3くらい <input type="radio"/> ほとんど掴んでいない
89	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/> 毎日ある <input type="radio"/> 数日に1回程度ある <input type="radio"/> たまにある <input type="radio"/> ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/> ほぼ全ての利用者 <input type="radio"/> 利用者の2 / 3くらい <input type="radio"/> 利用者の1 / 3くらい <input type="radio"/> ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている	<input type="radio"/> ほぼ全ての利用者 <input type="radio"/> 利用者の2 / 3くらい <input type="radio"/> 利用者の1 / 3くらい <input type="radio"/> ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/> ほぼ全ての利用者 <input type="radio"/> 利用者の2 / 3くらい <input type="radio"/> 利用者の1 / 3くらい <input type="radio"/> ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<input type="radio"/> ほぼ全ての利用者 <input type="radio"/> 利用者の2 / 3くらい <input type="radio"/> 利用者の1 / 3くらい <input type="radio"/> ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input type="radio"/> ほぼ全ての利用者 <input type="radio"/> 利用者の2 / 3くらい <input type="radio"/> 利用者の1 / 3くらい <input type="radio"/> ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができていく	<input type="radio"/> ほぼ全ての家族 <input type="radio"/> 家族の2 / 3くらい <input type="radio"/> 家族の1 / 3くらい <input type="radio"/> ほとんどできていない

サービスの成果に関する項目	
項目	取り組みの成果
96	<p>通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている</p> <p> <input type="radio"/> ほぼ毎日のように  <input type="radio"/> 数日に1回程度  <input checked="" type="radio"/> たまに  <input type="radio"/> ほとんどない </p>
97	<p>運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。</p> <p> <input checked="" type="radio"/> 大いに増えている  <input type="radio"/> 少しずつ増えている  <input type="radio"/> あまり増えていない  <input type="radio"/> 全くいない </p>
98	<p>職員は、生き生きと働けている</p> <p> <input checked="" type="radio"/> ほぼ全ての職員が  <input type="radio"/> 職員の2/3くらいが  <input type="radio"/> 職員の1/3くらいが  <input type="radio"/> ほとんどいない </p>
99	<p>職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p> <input checked="" type="radio"/> ほぼ全ての利用者が  <input type="radio"/> 利用者の2/3くらいが  <input type="radio"/> 利用者の1/3くらいが  <input type="radio"/> ほとんどいない </p>
100	<p>職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p> <input checked="" type="radio"/> ほぼ全ての家族等が  <input type="radio"/> 家族等の2/3くらいが  <input type="radio"/> 家族等の1/3くらいが  <input type="radio"/> ほとんどいない </p>

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載) 利用者様一人ひとりの生活スタイルを大切に、個々のニーズに合わせサービスを提供しています。